

# 大島郡医師会だより

No.111 2026.10月号

発行

大島郡医師会

奄美市名瀬塩浜町3-10

TEL0997-52-0598

FAX0997-54-0597

印刷 南海日日新聞社

医師会病院  
虹の丘  
訪問介護事業所  
訪問看護ステーション  
居宅介護支援事業所  
グループホーム虹の丘  
養護老人ホームなぎさ園  
臨床検査センター

## 理事就任のあいさつ

大島郡医師会 理事  
医療法人 慈心会 福山医院

院長 上園 敦子



このたび、大島郡医師会の理事を務めさせていただくことになりました。上園敦子と申します。

現在は沖永良部の医療法人 慈心会 診療所 福山医院にて内科外来を担当するとともに、令和2年からは医療法人 慈心会の理事長として法人運営にも携わっております。

聖マリアンナ医科大学を卒業し、昭和59年に医師国家試験に合格後、鹿児島大学医学部第二内科に入局しました。入局1年後に県立大島病院で研修し、そのまま同院に勤務しました。さらに沖縄の琉生病院での勤務を経て、再び鹿児島大学医学部第二内科に戻り、大学および周辺病院で勤務しながら、腎臓・人工透析についても学びました。やがて故郷である沖永良部に戻り、地域医療に従事するとともに、奄美群島で最初に開設された老人保健施設で、

入所者の診療にも携わるようになりしました。当時は老人保健施設そのものがまだ新しく、医療と介護の中で医師がどのような役割を担うべきなのか、日々の仕事を通して学んできたように思います。

離島で診療を続ける中では、本土との医療格差を少しでも小さくしたいという思いから、医療機器の整備などにも取り組んできました。しかし、台風をはじめとする自然災害のたびに、物流や交通、医療資源の限界など、離島ならではの厳しさを改めて思い知らされることも少なくありませんでした。この30年余りの間に医療を取り巻く環境も大きく変わり、近年では新型コロナウイルス感染症への対応や、医療・介護を支える人材不足など、新たな課題にも向き合っています。

現在、私が特に気になっていることのひとつに、医療保

険と介護保険、後期高齢者医療制度など、医療・介護を取り巻く制度の複雑さがあります。とりわけ介護保険施設における医療の範囲や医療保険との関係については、医療者にとっても分かりにくい部分があり、住民の皆様にとってはなおさらではないかと感じます。医療と介護は、地域で暮らす方々を支える上で切り離せるものではありません。医師会の中でも、こうした制度や連携について共に学び、理解を深める機会を持つことができればと考えております。

今回、理事という新しい役割をいただきましたが、理事の仕事については、まだ学ぶべきことが多いというのが正直なところです。これまで離島の医療・介護の現場で経験してきたことを少しでも生かしながら務めてまいりたいと思っております。

年齢を重ね、今後の働き方について考えることも増えてきました。現在も多くのお患者さんや施設の入所者、職員と関わる毎日が続いております。

す。もうしばらくは現役として、地域の医療・介護に携わっていききたいと思っております。

最近の楽しみは庭仕事です。草取りから始まり、今では木の手入れや剪定、時には伐採まで、少しずつできることが増えてきました。南国の強い日差しの中、真っ黒になりながら体を動かすことは、健康のためにも良く、これまで医療を中心に歩んできた私にとって、まったく違うことを覚えていく新鮮な楽しみでもあります。

これからも新しいことを学ぶ気持ち忘れず、これまでの経験を少しでも地域のお役に立てるよう努めてまいります。今後とも皆様のご指導ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。





## 理事就任のご挨拶

大島郡医師会 理事  
奄美市笠利国民健康保険診療所

所長 橋口 真征

令和8年7月から大島郡医師会理事に就任いたしました。よろしくお願いいたします。

私は徳之島の伊仙町出身の、いわゆる「島の人間」です。父親は南西糖業に勤めながら、自分でもサトウキビ栽培を行っている兼業農家でした。私は中学校から鹿児島へ進学し、寮生活を送りました。当時、ボロボロの緑の軽自動車に乗っていた両親を見て、子供心に私立学校の学費、寮費などがよく出せるなと思っていました。

夏休み、冬休みの長期連休に帰省すると、毎日休みなく両親と一緒に畑に行っていたのは、せめてもの罪滅ぼしだったのかもしれない。父親からは、「お前が勉強できるのは全部島の土からできたお金だから、将来は島に恩返しをしなければ、」

さい」と言われました。

その私が今、ご縁があつて笠利国民健康保険診療所で勤務することとなり、奄美市笠利町の地域で暮らす方々と共に生活し、地域医療に携わることが出来ることに感謝しています。

私にとって、学生時代から続けているテニスは生活の大切な一部です。年齢も職種も違うテニス仲間が、同じ空間で仲間のプレーを見ながら文句を言つて笑い合う、そんな島の風景が大好きです。郡体（大島地区スポーツ大会）には、奄美市のテニス選手団で、選手兼監督として参加しています。

して、相手の出てくる順番を予想し、一番勝つ確率が高い順番でこちらの選手の順番を決めることが重要な役割です。監督就任の年は奄美市が難なく7連覇を果たしました。翌年、慢心した私は予選から決勝までオーダーを変更せずに、王道で勝ち切りますと宣言しました。結果は：決勝で瀬戸内町に負けてしまいました。猛反省した私は翌年から自分のプレーより監督業を優先し、今年の郡体で3連覇まで漕ぎ着けました。

足が悪く何年も墓参りに行けないと涙を流された患者さんの言葉でした。職員と相談し、車椅子のまま墓前までお連れしたことから活動が始まりました。

設職員など45人ほどが参加しています。活動は年に3回ほどで、土曜日の午前中3時間という短い時間での活動ですが、活動後の爽快感は最高です。皆さんもぜひ一緒に楽しみましょう。

チームには試合に出る選手だけでなく、練習や試合当日のサポートをしてくれる仲間もいて感謝してもしきれません。それぞれが自分の役割を果たし、チームとして少しでも良い結果につなげていく。その結果として優勝できた時の喜びは、プレーヤーとしてはもう限界かなと思つて私をまたコートに押し戻してくれます。

買ひ物や墓参りの支援、自宅の片づけ、庭や畑の整備などを行う中で、支援とは単に手伝うことではないと感じています。もう一度自分で買ひ物を楽しむこと、墓前で手を合わせることに、庭や畑に出ることに。そうした自分らしく生きる時間を取り戻すお手伝いができればと思つています。

テニスでも、さばくり隊でも、一人ではできないことを仲間と一緒に形にしてみました。今後も、皆様と気軽に話し、学びながら、地域の医療に関わっていきたいと思つています。どうぞよろしくお願いいたします。

もう一つ、私にとって大切なのが、笠利さばくり隊の活動です。活動のきっかけは、

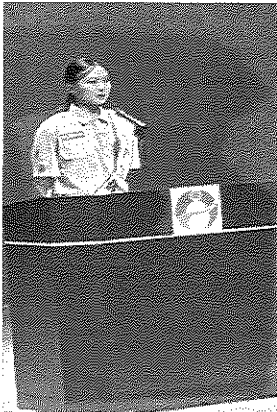
また、おばあ、おじいに郷土料理を教えていた、たく料理教室や、子どもたちと地域の皆さんで行う海岸清掃、漂流物を使ったアート制作も続いています。世代の違う人たちが一緒に活動することで、地域のつながりを再構築して、将来自分が住みたいシマを自分たちが作つておくことを目標にしています。



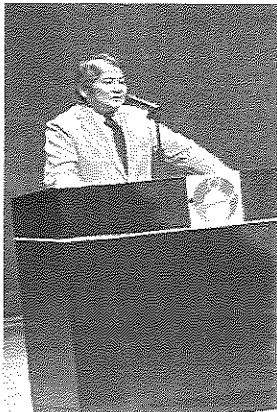
# 令和8年度「救急医療講演会」を開催

## 「物事ぬ 知り果てや 無ん」

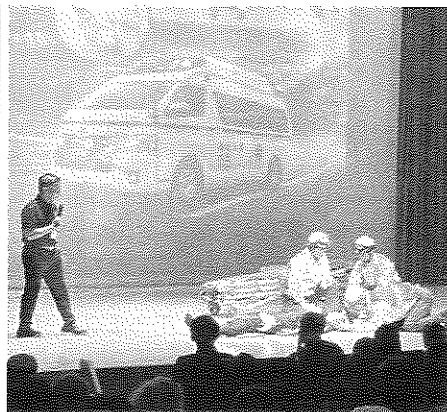
大島郡医師会では、地域住民等向けに救急医療に関する正しい知識の普及・啓発を行うことを目的とし、今年度の救急医療週間(9/6～9/12)の9月9日(水)に、アマホームPLAZAにて令和8年度「救急医療講演会」を開催いたしました。開会に先立ち、一日救急隊長(2026純美人 福摩真心さん)の紹介があり、開会后、医師会会長(稲源一郎先生)と奄美市長(代理:川畑博行 保健福祉部長)から挨拶がありました。はじめに「119番..その一報が命をつなぐ～奄美ドクターヘリが支える救命の連鎖～」と題して、大島地区消防組合職員と奄美救命(県病院医師/看護師)が登壇し、スライド&寸劇等による実演講習を行った後、続いて「奄美ドクターヘリ10年の軌跡～命をつなぎ、島をつなぎ、未来をつなぐ～」と題し、県立大島病院救命救急センター長の中村健太郎先生が特別講演をされました。会場には約250名もの市民ほか関係者等が訪れ、救急知識について熱心に耳を傾けていました。



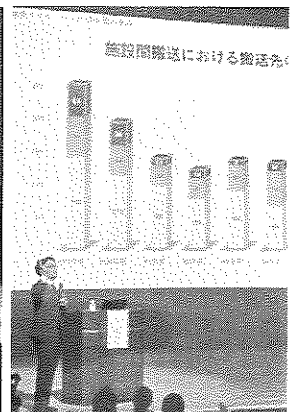
一日救急隊長の福摩さん



稲会長のあいさつ



大島地区消防組合職員と奄美救命による実演講習



中村先生の特別講演

## ～ケアマネジャーと病院・有床診療所との連携～ テーマ:入退院時連携における「口腔ケア」

「第10回奄美大島・喜界島在宅医療・介護連携推進に係る情報共有検討会」  
-Ageing in Place の実現を目指して～患者さんの退院を地域全体で支えるために-

日時:令和8年7月28日(火) 18時30分～20時

場所:①メイン会場:奄美市役所5階大会議室 ②サテライト会場:喜界町役場トレーニング室

対象:名瀬保健所管内の居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、地域包括支援センターの各事業所のケアマネジャー(メイン会場は各事業所から1名のみ)及び病院、有床診療所に所属する入退院に関わる看護師・社会福祉士等)

講話「口腔ケアから始める介護予防・重症化予防」



講師:大島郡歯科医師会会長 町田 慶太 先生

～サテライト会場(喜界町役場)～



名瀬保健所管内在宅  
医療・介護連携推進事業



～メイン会場(奄美市役所)～



稲会長

入退院時の情報連携に関する検討会が、奄美市役所を本会場として喜界町役場をZoomで中継する形で開催されました。昨年度の連携に関するアンケート結果の報告や令和8年度版の「奄美大島・喜界島入退院時連携の情報共有ルールの手引き」を紹介した後、今回のテーマ「入退院時連携における「口腔ケア」」に沿って、大島郡歯科医師会会長町田慶太先生(瀬戸内町まちだ歯科医院院長)の講話と意見交換を行いました。町田先生のユーモアたっぷりの講話で口腔ケアの重要性をひしひしと感じたあと、グループワークではそれぞれの立場で今後できることについて意見交換し、内容を共有しました。稲会長からは「連携することは実は楽しい、対面で話をするのがスムーズな連携の第一歩である。高齢者・障害児など口腔ケアの伸びしろは大きいし期待している。目指すところは地域の住民の方々が安心して暮らせる地域づくりであり、今後ますます正しいACPの普及が必要。連携を強くして地域力を高めていきたい」という趣旨のあいさつがあり、会は終了となりました。

## 【第72回地域包括ケア交流会 ※偶数月第4月曜開催】

テーマ:「急変時の対応」について

開催日時: 令和8年6月22日(月)18時30分～20時 於: 大島郡医師会館4階ホール

1. 講話:「DNAR対応の“すれ違い”を減らすために～在宅・施設・救急隊の現場から～」

講師: 大島地区消防組合 西 栄一郎 消防司令補(救急救命士)

2. 植木鉢図を使ったグループワーク(事例検討)

事例提供: 大島地区消防組合



救急隊の方も駆けつけてくださいました



救急救命士の西 消防司令補

6月22日(月)に第72回地域包括ケア交流会が開催されました。今回は医療と介護の連携が求められる場面の1つである「急変時の対応」について、大島地区消防組合の救急救命士 西 栄一郎氏をお招きし、「DNAR対応の“すれ違い”を減らすために～在宅・施設・救急隊の現場から～」と題した講話と事例を使ったグループワークを行いました。

講話では、大島地区で時々起こる「DNAR対応」について、「DNARの正しい理解と運用」、「施設・在宅の現場課題」、「地域連携とプロトコール策定」、「コロナ禍の課題と対策」等をうまくいった事例、うまくいかなかった事例を紹介しながらお話していただきました。後半の事例検討では、うまくいかなかった事例を振り返りながら、もっと知りたいこと、自分の役割やもっと連携したい機関職種などについて意見を出し合いました。講話の中で西さんから、救急隊として多くの救急の現場に立ち会うなかで、もっと高齢者が幸せになる「地域づくり」が必要と考えるようになったということ、独自に学びに行かれた先進地(大阪府大東市)の街づくりの取り組みを紹介していただき、大いに刺激を受けた時間となりました。

## 【第73回地域包括ケア交流会 ※偶数月第4月曜開催】

テーマ:「緊急・災害時の対応」

開催日時: 令和8年8月24日(月)18時30分～20時 於: 大島郡医師会館4階ホール

1. 講話:「緊急・災害時における在宅酸素事業者の対応について」

有限会社サト商会 代表取締役社長 里 栄作 氏

2. 植木鉢図を使ったグループワーク(意見交換)



講師の里 栄作 代表取締役社長



最新の機器についてのEtc

8月24日(月)は今年度3回目となる第73回地域包括ケア交流会が開催されました。今回は「緊急・災害時の対応」をテーマに、在宅酸素事業者の1つである、有限会社サト商会の代表取締役社長 里 栄作氏をお招きし「緊急・災害時における在宅酸素事業者の対応について」と題した講話とグループワークで意見交換を行いました。

里さんからは、「在宅酸素療法とは?」、「サト商会の在宅酸素療法について」、「サト商会における災害対策」など情報提供をしていただきました。特に災害時に在宅酸素事業者が行っている対策については、医療介護関係者及び行政の方々知っておくと災害時の連携に非常に役立つということがわかりました。また「在宅酸素事業者の災害時における課題」について、マンパワーの問題も含め事業者だけでは限界があることなどを提起されました。在宅酸素を利用される方々の災害時における課題として、「避難場所の確保」「避難時の連絡体制」「職種を超えた多職種連携」を挙げ、多機関との協力関係と連携が非常に重要と締めくくられました。後半のグループワークでは、在宅酸素を利用されている方々の把握方法は?道路が寸断された時の地域で完結できる仕組みはないか?等、様々な意見が交わされました。

## 男女共に大奮闘！ 「奄美まつり舟こぎ競争」

大島郡医師会病院・虹の丘 ほか

今年も奄美祭り恒例の「舟こぎ競争」に出場しました。今回は大会全体で140チームが参加する中、当会グループからは大島郡医師会病院(男女3チーム)、虹の丘(男女1チーム)、さらに県立大島病院をはじめとする医療・介護関係の事業所からも23チームが参戦し、大会を大いに盛り上げました。



## 「奄美まつりパレード」 総勢119名で参加！

医師会本部・大島郡医師会病院・虹の丘・なぎさ園 ほか

8月2日、今年も恒例の「奄美まつりパレード」に大島郡医師会として参加いたしました。今回は、新副会長の津畑先生や新理事の橋口先生、また、今年5月に開院した「つちもち整形外科クリニック」の皆様も含め、総勢119名での参加となりました。

猛暑が続く中での開催となり、対策を万全に講じて臨みました。当日は途中で日が陰ったことに加え、ミストシャワーや事前打ち水といった主催側の工夫や沿道からの応援にも助けられ、幸いにも体調不良者を出すことなく無事に終えることができました。こうした地域行事への参加は、地域住民の皆様との距離を縮め、より深く地域の医療・福祉に貢献していくための大切な機会です。今後も継続して参加していきたいと考えております。



職場の  
健康づくりを  
応援します！

従業員50人未満の事業所のみなさまへ

## 従業員の健康管理は 事業の安心の土台です

～大島郡地域産業保健センターが  
事業所の健康づくりをサポートします～

働く人の健康が、  
奄美の未来につながる。

こんなお悩みはありませんか？



健診結果、  
どう対応したら  
いい？



長時間労働の  
従業員が心配…



産業医がない  
けど、誰に相談  
すれば？



従業員の  
健康管理について  
専門家に相談したい



大島郡地域産業保健センターでは、  
医師による健康相談・保健指導・健診結果の意見聴取・  
長時間労働者への面接指導などを**無料**で行っています。



労働安全衛生法により、  
事業者は従業員の健康管理に取り組むことが義務付けられています。  
労働基準監督署による確認・指導が行われる場合もあります。

まずはお気軽にご相談ください

☎ 0997-53-1993

大島郡地域産業保健センター  
(大島郡医師会内)

【受付時間】平日 9:00～17:00  
(土日祝・年末年始を除く)

## 納涼夏祭り

令和8年7月4日

## 虹の丘だより

虹の丘の夏の一大行事である「納涼夏祭り」を今年も7月4日(土)に開催しました。今年のテーマに掲げられたのは「結(ゆい)～bayanihan(バヤニハン)～」。奄美伝統の助け合いの精神とフィリピンの共同体精神を重ね合わせました。ステージ発表では職員による「虹の丘音頭」で幕を開け、こしゅくこども園の園児による太鼓演奏や小宿中学校吹奏楽部の演奏、西村ダンス教室によるダンスなどが元気いっぱい披露されました。さらに、奄美看護福祉専門学校エイサー部の躍動的な演舞、虹の丘の職員で唄者でもある前山真吾の島唄、阿波踊り奄美連の迫力ある阿波踊りが次々とステージに登場、そして今年が目玉である「ピンポンズ」による特別ライブでは入所者様、ご家族様も巻き込んで会場が大いに盛り上がりました。フィナーレは、夜空を彩る花火と、参加者が一体となった熱気あふれる六調で締めくくられ、入所者様やご家族様だけでなく、職員や地域住民も一体となって楽しめた一夜となりました。



## なぎさ園だより

## 地域交流八月踊り

令和8年7月25日

7月25日に地域の方々にお越しいただいて「八月踊り」を披露していただきました。昨年は台風接近のため中止となり、2年ぶりの開催となりました。前回参加された利用者の方はもちろん、今年初めて参加された方も大変喜ばれ、職員と一緒に見様見真似で踊られ、楽しいひと時をお過ごしになりました。



## 敬老祝賀会

令和8年9月2日

9月2日に「敬老祝賀会」を開催いたしました。来賓として奄美市副市長、社会福祉協議会長、知名瀬町内会長、愛の浜園施設長の皆様にご臨席を賜り、また外部から祝い唄と祝舞の方々や、ボランティアで余興をしてくださる方々にもお越しいただきました。普段のイベントとは違った雰囲気、入所者の皆さんはステージを食い入るように見ておられ、笑顔や笑い声が出て楽しんでおられました。入所者の皆さんが、いつまでもお健やかに過ごされる事を願っています。





## 奄美の薬草

薬草研究

奄美の自然を考える会顧問 田畑 満大

### <ソクズについて>

ソクズと聞いて、すぐ分かるか不安ですが、紹介してみます。ガマズミ科(旧スイカズラ科)ニワトコ属ソクズ(クサニワトコとも)と言う植物です。が、分類体系が変わり、九州南部から琉球列島、小笠原、台湾に分布しているのはタイワンソクズとして分けられました。しかし、ソクズのシノニム「意味がほぼ同じ複数の言葉(同義語・別名)\*を指す語です。」だともいう文献もあります。



奄美各島の分布は、奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島に記録されております。また、九州南部から台湾に分布するものを変種のタイワンソクズとして分ける方達もおります。方言名として、今までに調べられたのがありますので、掲載してみます。「ウワンカケージ、ハブグサ、ワソカケージ、ワソカケジャ(沖永良部島)、タズ、タズクサ(請島)、トゥジー、トゥジャ(与論島)、タズクラ(与路島)、トーダァー(喜界島)、テーズ(徳之島)」、各集落ごとの方言がご存じの方は教えてください。

薬用利用として、「沖縄の薬草百科」多和田真淳・大田文子共著より紹介します。本書では、沖縄の方言で、ハブグサ、ハブヌマックマワと呼んでいるようです。ソクズの保存方法として、掘り取った根は水洗いして日干し、葉も水洗いして陰干して乾燥保存をする。【薬効】① 腎臓病、② ネフローゼ、③ 肝臓病、④ 耳鳴り、⑤ 中耳炎、⑥ 目まい、⑦ 膀胱炎、⑧ 膀胱結石、⑨ 尿道炎、⑩ 便秘、⑪ 慢性気管支炎、が対象になっています。【使用方法 - I】(①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑪、は共通 - 1日分) 沸騰させた水(お湯) 5合5勺 - 1ℓ に、ソクズの根の乾燥物を一握み(10~15g)を入れて水の量が半分ほどになるまで煎じ、1日3回に分けて服用する。【使用方法 - II】(⑩ - 1日分)、沸騰させた水(お湯) 5合5勺 - 1ℓ に、ソクズの葉の乾燥物を一握み(10g)を入れて水の量が半分ほどになるまで煎じ、1日3回に分けて服用する、と記載されております。民間療法ではありますが、古い時代から中国との交流があり、中医学の知識の応用ではと考えられます。

次に、奄美群島生物資源データベースの紹介を

します。民間療法として【乾燥した茎葉を風呂に入れ、神経痛やリウマチに用いる。つぶした実はいぼに、もんだ生葉は打ち身や捻挫に外用する。根の煎汁を、打撲傷やリウマチに服用する。その他、利尿、便秘、コレラ、月経不順に薬効があるとされる。奄美群島では、便秘、胃腸病、肝臓病、腎臓病に葉を煎服する。与論島では、猫いらずに中毒した鶏に汁を飲ませる。】、有用・有毒成分【ウルソール酸、 $\alpha$ -アミリンパルミテロ、 $\beta$ -シトステロール、スチグマステロール、フラボノイド、タンニン、クロロゲン酸、硝酸カリウム、精油を含む。】とされています。一般公開資料では成分の詳細な量や、どの成分がどの効能にどれだけ関わるかまでは、はっきり書かれていないこともあります。これは、ソクズの効能が主に伝統的利用として紹介されることが多いためです。

今回は、これでめにしようと思いながら、ある資料が目にとまったので、これも紹介したく追加しました。厚生労働科学研究の公開資料では、沖縄県で採集したソクズの地上部をメタノール抽出して含有化合物を単離し、構造決定した研究が紹介されています。厚生労働省科学研究費補助金(医薬品・医療機械等レギュラトリーサイエンス総合研究事業) 分担研究報告書、分担研究者 大塚 英昭 安田女子大薬学部 教授。ソクズの化学成分に関する研究。近年、沖縄においてソクズの青汁がアシタバジュースとして販売され健康被害が報告されている。そこで、本研究ではソクズの成分検索を行うこととした。研究協力者名、広島大学 教授 松浪勝義、安田女子大学 教授 西村基弘、准教授 稲垣昌宣、助教 川上 晋。中国の古典「神農本草経」には陸營の名で、「金匱要略」には蒴藿細葉の名で記載されている。「新古方薬囊」におけるソクズの効能は味苦寒、血脉を整え、熱を去り、切れたところを通ずる効があるとされ、傷薬の妙薬として知られている王不留行散構成生薬の一つである。古典「本草綱目」には「蒴藿有毒」との記載も見られている[1]。B. 研究方法。結果:「蒴藿有毒」は事実と思われ、本植物若葉を青汁ジュースとして飲用するのは甚だ危険と言わざるを得ない。また、文献データベースでは、ソクズ由来成分としてウルソール酸が扱われています。(ウルソール酸によるマウスの免疫機能に及ぼす影響に対する実験研究)

これまでの資料を参考にし、ソクズの利用を深められることを期待し終わることにします。

## 学術講演会・研修会等のご案内

- ◆10月15日(木) 18:30~19:30 ※ハイブリッド開催 医師会館4Fホール  
【T2D Conference in Amami】日本ペーリンガーインゲルハイムとの共催
- ◆10月20日(火) 19:30~20:10 ※WEB開催  
【地域医療と漢方】ツムラとの共催
- ◆10月30日(金) 19:00~21:00 県医師会館&Web  
【令和8年度 認知症サポート医フォローアップ研修】
- ◆11月5日(木) 19:00~20:30 県医師会館&Web  
【令和8年度第1回かかりつけ医等発達障害対応力向上研修会】
- ◆11月11日(水) 19:00~20:30 県医師会館&Web  
【令和8年度鹿児島県医師会医療関連感染対策研修会】
- ◆11月13日(金) 19:00~20:00 ※ハイブリッド開催 医師会館4Fホール  
【大島郡肺癌連携の会】中外製薬との共催
- ◆11月14日(土) 13:00~16:10 城山ホテル鹿児島  
【第126回九州医師会連合会—総会・医学会—】
- ◆11月20日(金) 19:00~ ※予定 医師会館4Fホール  
【第17回地域医療シンポジウムin奄美く仮称>】鹿児島大学の後援
- ◆11月21日(土) 17:00~18:00 おぎえらぶフローラルホテル  
【BPSD治療連携フォーラムin沖永良部】大塚製薬との共催
- ◆12月3日(木) 19:00~20:00 ※ハイブリッド開催 医師会館4Fホール  
【DUAL Seminar 大島郡医師会糖尿病学術講演会】住友ファーマとの共催
- ◆12月17日(木) 19:00~20:30 ※ハイブリッド開催 医師会館4Fホール  
【O-Summit For Diabetes in Amami】ノボルディスクファーマとの共催

# 奄美の医療雑話

(73)

## 藩政末期の医師・加勇田藤良

元名瀬市立奄美博物館長 林 蘇喜男

医療施設のなかった昔、病氣やケガの際には島古来の療法は薬草・海産物などでの手養生(テヨジョ)での自家治療であった。手におえないときは、ユタ神様に占いをしてもらい「ましなない」(呪文)などで対処することもあった。奄美の島々の各集落には、民間療法の技術者(手熟師)が存在し、病氣を見たらてて治療を半専門的に業とする者がいた。

「名瀬市誌」の医療関係記録によると、『名瀬・小宿の医師加勇田藤良に医師の免許が交付されたのは明治十七年四月であった。小宿で開業し、明治二十八、九年の頃八十歳で他界したが、老齢になつてから失明し、病人がでると青年たちにおんぶされお伴されていた。』と記述されている。「南島雑話」の著者・名越左源太が小宿の地で流人生をすごしたとき、身の回りの世話をしたのが加勇田藤良であり、そのときは小宿の有力者・藤由気の養子で名は嘉美行と呼ばれていた。名越

左源太が嘉永三年から安政二年までの五年間、流人としての生活をすごした場所には案内板があり、朝仁生まれの嘉美行が藤由気養子となつて小宿で暮らしていた一帯である。名越左源太が遠島処分を解かれ、帰藩のとき、嘉美行及び大太郎の両人は鹿児島に召連れられて医師習得をして帰郷したと伝えられている。大太郎は小宿・稲家の先祖亀蘇民の弟という伝がある。嘉美行改め加勇田藤良の姓名は、嘉美行父祖の所有地・朝仁の小字名「加勇田」を姓とし、養親「藤由気」の一字をあてて「藤美行」と名のついていた

嘉美行が医師習得して帰郷したのは安政六年(一八六〇)ころで、小宿の地で医療行為はその直後である。明治元年(一八六七)に名越左源太にあてた手紙文中に「私目塩梅之儀年々快方に相成り」という字句がある。嘉美行(加勇田藤良)の失明は五十歳の頃からすすみはじめていたと思われる。

## 編集後記



大島郡医師会だより第111号をお届けします。7月に発生した熊本での地震、また8月の千葉県豪雨をはじめ、全国各地の自然災害によりお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興を心よりお祈りいたします。◆前号の発行からこの3ヶ月間、日本列島は記録的な豪雨や相次ぐ台風など、深刻な自然災害に見舞われました。奄美群島でも台風6号、13号、18号の影響を受け、特に徳之島や沖永良部島では大きな被害が出ました。電力の途絶や交通機関の欠航にともない、食料品や医薬品、輸血用血液の供給体制など、多くの課題が浮き彫りとなりました。◆今号では、6月の役員改選により、新しく理事に就任されたお二人の先生

方にご寄稿いただきました。大変お忙しいなか、執筆にご協力いただき心より感謝申し上げます。◆また、9月9日の「救急の日」に開催された救急医療講演会では、「奄美ドクターヘリ10年の軌跡」と題して、県立大島病院救命救急センターの中村健太郎先生による特別講演が行われました。同センターのスタッフや大島地区消防組合の皆様による実演講習もあり、119番通報から救急隊の駆け付け、ドクターヘリの要請、医療機関への搬送まで、多くの連携によって命が救われる過程が動画を交えて分かりやすく紹介されました。◆今年は相次ぐ台風の中、各地域の夏のイベントは、どうにか無事開催されたと思われまふ。『なぎさ園八月踊り』『虹の丘夏祭り』も天候に恵まれ、地域の方々からの出演や夜店出店で大変盛り上げていただきました。来年も多くの皆様のご参加をお待ちしております。◆今年も早いもので残すところ3ヶ月を切りました。次号は新年号です。皆様からのご寄稿をお待ちしております。(T.N)